

令和6（2024）年度 学校経営計画及び学校目標

1 めざす学校像

- ・常に主体的で挑戦心、探究心を持ち、また思いやり・気配りのできる生徒の育成
- ・これからの多様な変化に富んだ社会、変容する国際社会の中でも、自分の考えで行動し、活躍、貢献できる人材の育成
- ・法人、藍野高等学校連携強化（生徒間の交流、融和／学校経営の安定）

そのために、全学的に高質な教育の提供を維持し、授業や行事・部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、一人お連携強化をひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす。

1. 学習と部活・行事に積極的に取り組める学校（普通科・衛生看護科）
2. 希望する進路を実現させられる学校
3. 社会から信頼され、地域からは誇りに思ってもらえる学校ー開かれた学校（地域連携の充実）

2 中期的目標

1. 授業の充実と進路の実現 学校テーマ「**主体的な学びを育成する授業**」

（1）「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む

- ① 授業アンケートを軸にした PDCA サイクルの徹底による授業改善を進める。
- ② 教師力（教科指導力（授業力・専門知識）＋人間力）を向上させる。
ーこれまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT 機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組みを進める。
ー各種研修会や授業公開を積極的に行い、学校としての自己改革力高める。
- ③ 「探究・展開・発表する力」を育む取組みを進める。
ーアクティブ・ラーニングを取り入れた能動的な学習法を追求する。
ー生徒自身の発表の舞台を作る。（学習発表、英語プレゼン、情報プレゼン発表など）

※学校アンケート（生徒、保護者）における「雰囲気がよく学校を楽しんでいる」に関連する問いの肯定的回答（R5-生徒 70% 保護者 75%）を、R6 年度には双方 85%以上をめざす。

（2）進学実績の向上・准看護師国家試験合格率 100%の維持

- ① 「授業・自主的学習の一体化と充実を図る。（スラッグの活用やチェック機能）
- ② 「自学力」の育成ーもっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。
ー各時期の講習会の活用とチューター学習システムの活用・スタサポの活用
- ③ 普通科「中堅・難関大志望・看護医療系進学希望者」ー進路を実現させる工夫とともに生徒の細やかな希望に応える体制づくりを行う。
衛生看護科「生徒全員が国試対策と短大進学に向けた5年計画の学びの意識を持つ」
- ④ 両学科における、日常的な学習効率の向上ー授業を大切にする考え方の育成
- ⑤ 新学習指導要領、教科書、観点別評価に向けた進捗を確実化させる。

2. 主体性・探究心をもった学習姿勢と学校生活での他人への思いやり・気配りの精神の涵養

（1）「主体的・探究心」の育成とともに、集団生活で「人を思いやることの大切さ」を実感させる。

- ① 勉強と部活・行事の両立 ー学習・生活習慣・多様性・挑戦心の育成。
- ② 生徒会活動の自主運営 ー文化祭、体育大会等の自主企画・運営を行い、生徒に多様な集団活動運営で味わえる成就感、達成感を体験させる。

- ③ 国際理解の推進 ー国際交流事業に取り組む。
- ④ 人権尊重教育の取組み ー多様な社会の中で、視野・視座の上がる教育を行い、思いやり・気配り力の醸成も図る。

※学校アンケート（生徒）「体育大会や文化祭などの学校行事では、自分の力が十分に発揮できる」肯定的回答（R5：65%）を R6 年度に 80%以上をめざす。

（2）教育相談体制の充実

- ① 担任、学年は人権教育委員会を中心として学校カウンセラー、養護教諭の協力を得て、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。

※学校アンケート（生徒）「悩みや困ったことがあるときに相談できる先生がいる」保護者「学校は適切なアドバイスを行っている」の肯定的回答（R4-52%・58%）を、R5 年度には両方とも 80%以上をめざす。

3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携

（1）機能的な組織運営と学校情報の積極的発信

- ① チームワーク・フットワーク・ネットワークを生かした機能的な校務運営に務める。
- ② ミドル・アップダウン・マネジメントを有効に機能させる。また、積極的な OJT を通じて次代を担うリーダーの育成に努める。
- ③ 学校説明会、HP、SNS などを活用して積極的な情報発信・コミュニケーション強化に努める。
- ④ 学校評価委員会、保護者会、照思会との連携を充実させる。

（2）地域連携の推進

- ① 地域信頼の構築を図り、子ども食堂や商店街とのコラボレーション企画を開発し、今年度も進める。（近隣苦情対策）
- ② 学校評価委員会では地域の意見も大切にし、協力体制を構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 〔令和 7 年 3 月実施分〕	学校運営協議会からの意見〔令和 7 年 6 月実施分〕
○生徒 授業評価アンケート 授業準備がしっかり行われているか 授業目標や、大切なポイントを説明してくれるか、声や話し方は聞き取りやすく、説明がわかりやすいか 質問したり考えたり、発表する時間が多いか 先生の話すスピードや声の大きさは適切であるか 教え方や教材に工夫が見られるか ○保護者 学校への満足度調査を実施予定 ○教職員 各学期末の授業アンケートを踏まえ、良い評価については更に上質の授業を目指し、低い点については謙虚に受け止め、改善と工夫に力を注ぐ。常に生徒の目線に立ち、目標値を設定し効果的な指導に取り組んでいくようにする。 【分析】 教職員に学校運営と将来構想を周知し、意識改革に取り組む。	学習に関するアンケート数値において複数年 に渡って改善・向上しており、今後ともより一 層の内容充実を期待するとの意見だった。生徒の授業評価が比較的高い水準を維持している一方で、生徒の学力向上に関する保護者評価については、生徒の評価水準と乖離する傾向が見られる。生徒の学習に関する満足度が保護者にも共有されるよう、学校からの情報発信を今後も心掛けたい。 生徒へのアンケート結果では高い評価となっている。予習・復習の「あまりあてはまらない」の数値が直近 3 年間であまり変化がなく向上していない。担任・生徒間のコミュニケーションは良好であることから、実際の要因（原因）などを探って改善すれば向上の糸口になるのではないかと。プレゼンテーション・コミュニケーション能力は総じて高い数値となっているが、1 年生の時点からディスカッションやディベートなどを採り入れ、自分の意見をはっきりと伝える能力を育成することも有効と考える。

3 本年度の取り組み内容及び自己評価 令和6年度

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力の向上	(1) 個に応じた学習指導の充実 ア 授業における指導体制を確立する。 イ 習熟度別展開授業の実施。 (2) 生徒主体の授業改革の実施 ア 指導と評価の一体化を図り、教科・科目の目標の達成に向けた授業改善を努める。 イ 法令や生徒の実態を踏まえた教育課程の改善	(1) ア 指導方法評価方法を工夫し、思考力・判断力・表現力を育成する イ 生徒間の学力差を考慮し、日常的な課題、丁寧な指導等、工夫を施した指導を行う (2) ア 教科の振り返りと授業点検をし、各教科の公開授業を積極的に進める イ 各学科・コースにおける生徒の興味関心等に対応した特色ある教育課程を編成する	(1) ア 授業アンケート満足度75%以上 (R5- 65%) イ 学年成績の推移を経年比較 (2) ア 常に相互の授業見学、研究は可能とし研修に努める イ 両学科の教育課程の編成	(教務部) (1) ア (授業アンケート未実施) (1) イ 習熟度別展開授業では、通年ではなく学期でクラス編成を行うことで、生徒の短期目標実現につなげた。学年成績の推移は、校務支援システムの運用により、各生徒の成績情報を共有し、把握することができている。 (2) ア 教員の教科指導力向上のために、相互授業見学・研究を常に可とするにとどまらず、促進期間を設定しての実施も行った。 (2) イ 高校卒業後の進路を見据えた教育課程を編成するとともに、資格・免許の取得に取り組める体制を整えている。

生活指導	(1) 基本的生活習慣・学習習慣の確立 ・清楚、清潔な身だしなみを心掛けさせる。 ・登下校マナーの徹底（服装・公共マナー） (2) 道徳教育、人権教育の推進 ・教育相談の充実を図り生徒理解に努める。 ・問題の早期発見・早期対応に努める。	(1) 身だしなみ指導週間の実施 また、毎朝、全教員による登校指導の実施 (2) 道徳教育、人権教育を推進し、人間として調和のとれた生徒を育成する。 全教職員、適格な問題対処や教育相談ができるように研修会を実施。 「暴力・いじめに関するアンケート」の定期的な実施と適切な対応。	(1) 遅刻者数の統計調査により前年度比10%減少を図る。 登下校指導／自転車安全講習会年1回実施 薬物乱用防止講演会年1回実施 (2) 各学年人権学習（講演等） 教職員研修会1回実施 「暴力いじめに関するアンケート」／毎学期末	（生活指導部） （生徒指導部） (1) 身だしなみ指導について、全教員による登校指導及び校門での指導を実施し、継続指導により、徐々に改善ができた。 遅刻者数について、生徒増に伴い一定数の遅刻があった。減少させるための対策が必要である。 (2) 人権教育について、教職員ならびに生徒に対して、研修会やいじめアンケートの実施ができ、個々の訴えに対して各部署等と連携を図りながら対応をすることができた。
進路指導	(1) 生涯を見通した的確な進路指導 ア 進路選択に向けた活動を企画・運営する。 イ キャリア教育を基盤とした組織的な進路指導の充実に努める。 (2) 希望進路実現のための学力の充実と向上	(1) ア 3年間・5年間の系統的な進路指導計画を策定し、適切な時期に進路別ガイダンスや情報提供、講習や面接指導などを行うことにより、進路意識の向上を図る。 イ あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人、看護師としてのマナー向上を図る。 (2) 模試や検定の受験に向けた意識の一層の高揚（事前・事後指導を徹底する）	(1) ア 各学年の進路ガイダンス面接対策講座国家試験対策講座（3年生） オープンキャンパスへの参加啓蒙 イ キャンパス見学の実施 (2) 実力テスト・小論文テスト 模試分析の充実 進路指導室利用の促進	（進路指導部） キャンパスツアーを5月に実施 学期に一度進路ガイダンスを行い、進路意識の向上・情報提供をはかった。 3年生対象に、2学期が始まる前に面接講座を実施した。 年に5回、模擬試験を実施し、生徒それぞれの到達度を確認させ、志望校合格に向けての立ち位置を確認させた。 進路指導室利用の促進を目標としていたが、トモノカいを導入することにより、進路意識の向上を図った。

特別活動	(1) 強化指定部を中心に適切な部活動が実践されるように指導。 (2) 校内美化をいっそう充実させる。学校をきれいにすることで生活意識の改善させる。 (3) 本校伝統の学校行事の継承、維持に努める。 (例) 家隆忌・芭蕉忌・和歌披講会・宮中詠進など	(1) 強化指定部の活動内容を精査し、予定表のチェックと助言指導を実施。 (2) 校内一斉美化の日を設け、学校全体で協力し、清掃活動を行う。 (3) 全員参加を原則とし、文化意識を高めておく。	(1) 強化指定部 完全休養日／月4日 近畿大会以上の出場 (努力義務) (2) 全校美化の日を設定。 (3) 各行事ごとの要項の徹底	(入試広報) 近畿大会以上の出場クラブは吹奏楽部、バスケットボール部、ソフトテニス部であった。 休養日の設定も前に進んでいる。 (保健安全部) 新しい校舎で美化の意識が高められた。次年度にも繋げていきたい。 (総務部) 新年かるた会では衛生看護科と一緒に参加でき、衛生看護科にも行事の理解が深められた。
-------------	---	---	--	--